

問題校則（いわゆるブラック校則）および不適切指導に関する調査

ブラック校則をなくそう！プロジェクトチーム
（文責：荻上チキ）

（1）調査の目的

様々な問題校則や不適切指導は、いったいどの程度行われているのか。その実態を把握することで、子どもの権利確保を前提とした、より豊かな教育環境をつくるための提言へとつなげていく。

（2）調査の概要

□量的調査——2018年2月、調査会社を通じてアンケートを行ったもの

・調査 A：10代（15歳以上）から50代の男女2000人を対象に、人口動態の比率に合わせてランダムサンプリング。うち1000人には中学生時の経験を、残り1000人には高校生時の経験を聞いている。

→問題校則や不適切指導の経験率を確認することに加え、年代、性別、居住地域、学歴、所得などの基礎情報から、自尊尺度、対人信頼尺度、問題行動尺度などを幅広く確認したうえで、統計処理をほどこした

・調査 B：予備調査を通じて抽出された現役中高生の親2000人を対象にランダムサンプリング。うち1000人は、現役中学生の保護者。残り1000人は現役高校生の保護者である。

□質的調査——2017年12月以降、呼びかけによって収集したもの

・調査 C：ウェブサイトの投稿フォームに寄せられた事例、およびつながりをもった親子に対してヒアリングを行った事例

・調査 D：貧困当事者、性的少数者、不登校経験者、発達障害者、外国籍にルーツを持つ者、およびそれぞれの保護者など、社会的マイノリティとされる当事者たちに、個別にヒアリングを行った事例

※今回のプレスリリースは、上記調査の一部を速報するもの

※調査設計および分析については、名古屋大学教育学部の内田良氏、同学部岡田有真氏の協力を得た

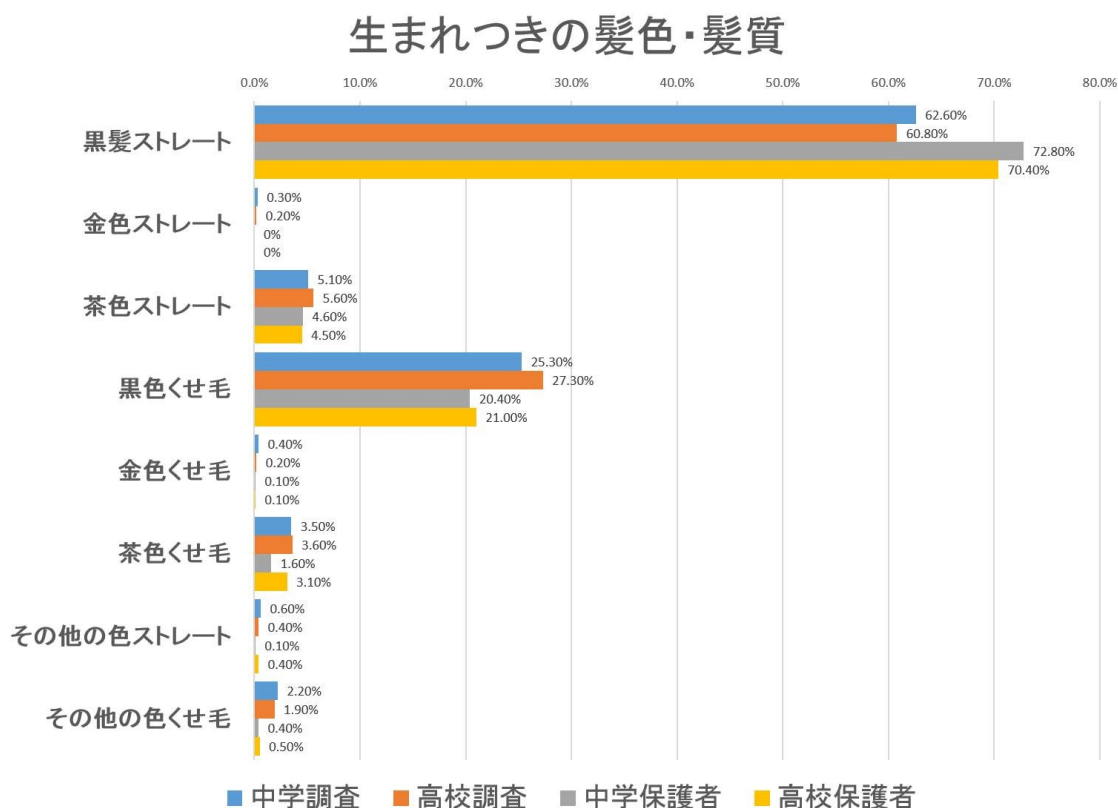
※調査費用については、村上絢氏が運営する村上財団に提供いただいた

※事例収集については、メディアパートナーである BuzzFeed Japan の協力を得た

（3）量的調査（調査 A・B）の概要

- ・生まれつきの髪色・髪質が「黒髪ストレート」の割合は6割
- ・生まれつきの髪色が「茶色」の者は1割弱（8%）程度存在している
- ・生まれつきの髪色が「茶色」の者は、中学時代で1割程度、高校時代で2割程度が「髪染め指導」を経験する
- ・問題校則や理不尽指導には「流行り廃り」があるが、スカートの長さチェックや下着の色チェックなど、最近になって増加している項目も多数見られることから、形を変えた管理主義が進行している。

(4) 量的調査（調査A・B）のポイント分析



（中学保護者、高校保護者については、「子供の髪の毛」について訪ねた数値を入力）

「調査A」（本人向け調査）によれば、生まれつきの髪色・髪質が「黒髪ストレート」の割合は6割。「調査B」（保護者向け調査）によれば7割となる。

AとBの1割のギャップは、主に「くせ毛」に対する評価の差によるもので、「茶色」の認識に大きな差はない。すなわち、保護者よりも、当人の方が、自らの髪質を「くせ毛」だと自認する割合が多いということが分かる。

「茶色」の割合は、本人・保護者共に、8%程度。「日本人なら黒髪」というのは、データから見てもひとつの偏見であるということが分かる。

■ 中学生時の毛髪指導経験率（調査A、中学時全体）

	10代	20代	30代	40代	50代
黒染め要求	2.53	1.19	1.9	0.4	0
地毛証明書	1.9	1.19	3.32	2	1.88
赤子の写真	1.27	2.38	1.42	0.8	0
縮毛要求	0.63	3.57	0.47	0.8	0.47
教師のからかい	0.63	1.79	1.42	0.4	1.41
他生徒のからかい	5.06	2.98	1.42	2	0.47

■ 高校生時の毛髪指導経験（調査 A、高校時全体）

	10代	20代	30代	40代	50代
黒染め要求	6.33	2.98	1.9	0	0.94
地毛証明書	6.96	0.6	1.9	1.2	1.41
赤子の写真	3.16	1.79	1.42	1.20	0.47
縮毛要求	1.9	0.6	1.42	0	0
教師のからかい	2.53	1.19	0.47	0.8	1.88
他生徒のからかい	3.16	2.98	0.47	1.20	1.70

毛髪指導などに関して調査したところ、（※黒髪ストレートが毛髪指導を受けていないという前提にたったうえで）、全体としては1~2%の者が黒染め要求を経験している。

このうち、生まれつきの髪色が「茶色」の者に絞ってクロス集計すると、中学時代で1割程度、高校時代で2割程度が「髪染め指導」を経験している。

年代別にみると、年代によって黒染め要求の率が変わっており、特に現役10代でその割合が高くなっていることが分かる。ここ数十年は、ドラッグストアなどで染髪剤が普及し、茶髪にすることがファッションとして定着した一方で、黒染めもまた技術的には容易になっていった。そのため、黒染め要求が「指導」の名のもとに選択される機会が増えたこともあるが、特に高校生を対象に増加傾向にあることから、近年の生徒指導の現場に、意識的な変化が広がっていることが伺える。

■ 中学時代の校則体験（調査 A）

	10代	20代	30代	40代	50代
給食を残すと、休み時間に遊びに行けない	3.8	4.17	6.16	6.4	1.88
髪の毛の長さが決められている	26.58	16.67	13.74	32	25.35
髪型が細かく指定されている	20.89	9.95	15.6	13.15	15
スカートの長さが決められている	56.96	38.1	23.7	40.4	34.74
下着の色が決められている	15.82	4.76	1.9	3.2	0.94
眉毛を剃ってはいけない	44.3	20.24	8.06	11.2	8.45
整髪料を使ってはいけない	38.61	19.64	10.43	10	7.04
チャイムの前に着席をする	51.9	16.07	16.59	20.4	12.68
カバンや制服はおさがりではなく新品でなくては いけない	0.63	1.79	0	1.6	0
冬でも、ストッキングやタイツ、マフラーなどの防 寒対策をしてはいけない	7.59	2.38	2.37	6.4	4.69
体育や部活時に水を飲んではいけない	3.16	2.98	4.74	17.2	9.39
帰宅途中に買い物をしてはいけない	50	23.21	31.28	30	19.72
教科書や辞書を学校に置いて帰ってはいけない	26.58	12.5	12.8	22.4	14.08
日焼け止めをもってきてはならない	8.23	5.36	3.32	5.2	1.88

リップクリームをもってきてはならない	6.33	2.98	2.37	7.6	3.29
恋愛をしてはいけない	1.27	4.76	0.95	2.4	1.41
SNSをつかってはいけない	3.8	3.57	0.47	1.2	0.47

中学時の校則について、種別と年代別にまとめた。表のように、校則にはトレンドがあるが、現代の10代にとって、かつてより校則が厳しくなっている項目が多くある。例えば「水飲み禁止」については、若い世代になればなるほど、経験率が下がっていくが、「スカートの長さ指定」「下着の色指定」「眉手入れ禁止」「整髪料禁止」などは、近年になって、むしろ増加傾向にあることが分かる。背景には、学校の慣性バイアスによる継続、新たな「統率」ニーズの増大、あるいは教員の多忙化による一括管理化など、様々な説が考えられるが、実態に関しては、現場教員などへの聞き取り調査などが必要となる。

日本の学校は、制服を導入するだけでなく、多様なファッションを「平等原則」「おしゃれ禁止」「盗難などのトラブル防止」「授業の妨げ」といった理由で抑圧する傾向が強い。そうした中、従来からあるスカートの長さの統一のほか、下着の色、眉毛を整えることの禁止など、80年代とは異なる新たな管理項目が急増している現状もある。

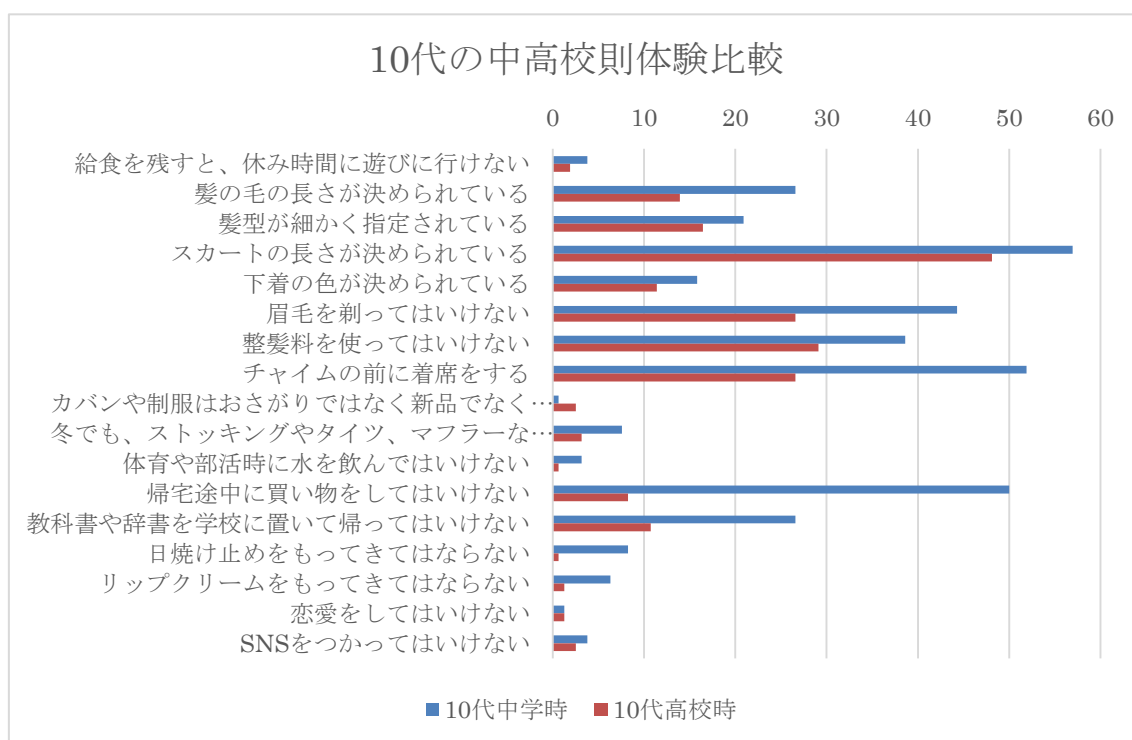
また、日焼け止めやリップクリームについても、禁止を経験した者の割合が増加している。日焼け止めやリップクリームについて、「おしゃれ」と認識している学校も多いが、これらはサンバーン対策や唇の荒れ対策など、利用者の健康維持にも欠かせないアイテムとなっている。こうした項目に注目すると、大人であれば当たり前利用できるものが、過剰に取り締まられている傾向が浮き彫りになってくる。

■ 高校時代の校則体験（調査 A）

	10代	20代	30代	40代	50代
給食を残すと、休み時間に遊びに行けない	1.9	3.57	1.42	0.8	0.94
髪の毛の長さが決められている	13.92	12.5	11.37	14	23.47
髪型が細かく指定されている	16.46	13.1	9.48	10	12.68
スカートの長さが決められている	48.1	32.14	27.49	25.6	30.52
下着の色が決められている	11.39	7.14	1.42	1.6	0.94
眉毛を剃ってはいけない	26.58	11.9	6.16	7.6	6.1
整髪料を使ってはいけない	29.11	12.5	4.27	6.8	3.76
チャイムの前に着席をする	26.58	9.52	9.95	8.4	10.8
カバンや制服はおさがりではなく新品でなくては いけない	2.53	0.6	1.42	0.8	0
冬でも、ストッキングやタイツ、マフラーなどの防 寒対策をしてはいけない	3.16	1.19	2.37	1.2	0.94
体育や部活時に水を飲んではいけない	0.63	1.19	3.79	3.2	5.63
帰宅途中に買い物をしてはいけない	8.23	2.38	5.69	6.8	9.86
教科書や辞書を学校に置いて帰ってはいけない	10.74	6.55	6.64	8.8	10.8

日焼け止めをもってきてはならない	0.63	1.19	0.47	1.2	0.47
リップクリームをもってきてはならない	1.27	1.79	1.42	2.8	1.41
恋愛をしてはいけない	1.27	4.17	2.84	2	0.94
SNSをつかってはいけない	2.53	1.19	0.47	0.8	0

高校においても、現代の方が厳しくなっている校則が多くある。中学同様、スカートの長さの指定だけでなく、下着の色の指定などの項目も、90年代以降増加傾向にある。痴漢予防を規制の根拠にあげる学校も少なくないが、痴漢が女性の服装によって引き起こされるというのは、性暴力についての典型的な思い込みであり、生徒に「呪い」をかけることに他ならない。また、男性教員によってスカートチェック、下着チェックをされたという女性との声も少なくなく、その行為自体が（スクール）セクシュアルハラスメントにあたるという認識の普及が必要である。



中学校と高校での体験を比較してみると、中学校のほうが校則が厳しくなりがちであることが分かる。他方で、毛髪指導については高校の方が経験率が高いため、校則にあることと、具体的指導の経験は、分けて考える必要があるだろう。

校則にも、生徒手帳やプリント、ウェブサイトなどに明記されているものと、教員の裁量や「伝統」「校風」の名の下に行われているものがあり、全てが書面などで示されているわけではない。また、校則だけでなく、部活動独特のルール「部則」なども存在する。どのような仕方であれ、児童生徒の権利を侵害するものについては、それをおかしいと言いやすい社会的通念を形成していく必要がある。

■ 中学時の理不尽指導（調査 A）

	10代	20代	30代	40代	50代
連帯責任で叱られた	27.2	22.62	17.54	30.4	20.19
軽く叩かれた	14.56	8.93	15.17	26.8	23.94
強く叩かれた	2.53	4.95	12.8	31.2	14.55
人前で強く叱責された	11.39	13.1	11.37	24	13.15
人前で体型をからかわれた	3.16	2.98	2.84	3.6	1.88
人前で成績を難じられた	5.7	2.98	2.37	3.2	1.88
下着の色をチェックされた	2.53	1.19	0.47	0.8	0
身体を性的に触られた	1.9	1.19	0.47	0.8	0.47
皆の前で謝らされた	6.33	1.79	3.32	6.4	2.82
廊下に立たされた	3.8	2.98	5.21	14.4	10.8
授業中に正座をさせられた	1.27	1.19	2.84	9.6	6.1
反省文を書かされた	9.49	5.36	4.27	12	5.16
髪の毛の長さを測られた	5.06	4.72	1.42	11.6	7.98
スカートの長さを測られた	7.59	7.14	4.74	9.2	6.1
髪の毛を切ったり染めるよう求められた	8.23	5.95	3.79	6.8	4.23
髪の毛を強制的に切られたり洗われた	0.63	1.19	0.47	3.2	0.94
部活を辞めさせてもらえなかった	3.16	1.79	0	2.8	0.94
体調不良や怪我でも部活参加を強要された	3.8	2.98	1.42	5.2	0
体調不良や怪我でも授業参加を強要された	4.43	5.36	1.9	5.8	0.94

中学時の教員からの理不尽指導を年代ごとにクロスした結果、理不尽指導にも「はやりすたり」があることがわかる。全国的には、体罰、廊下に立たせる、正座させるなどの指導経験は若くなるほど減少するが、連帯責任など、近年になって復活していると考えられるものもある。

■ 高校時の理不尽指導（調査 A）

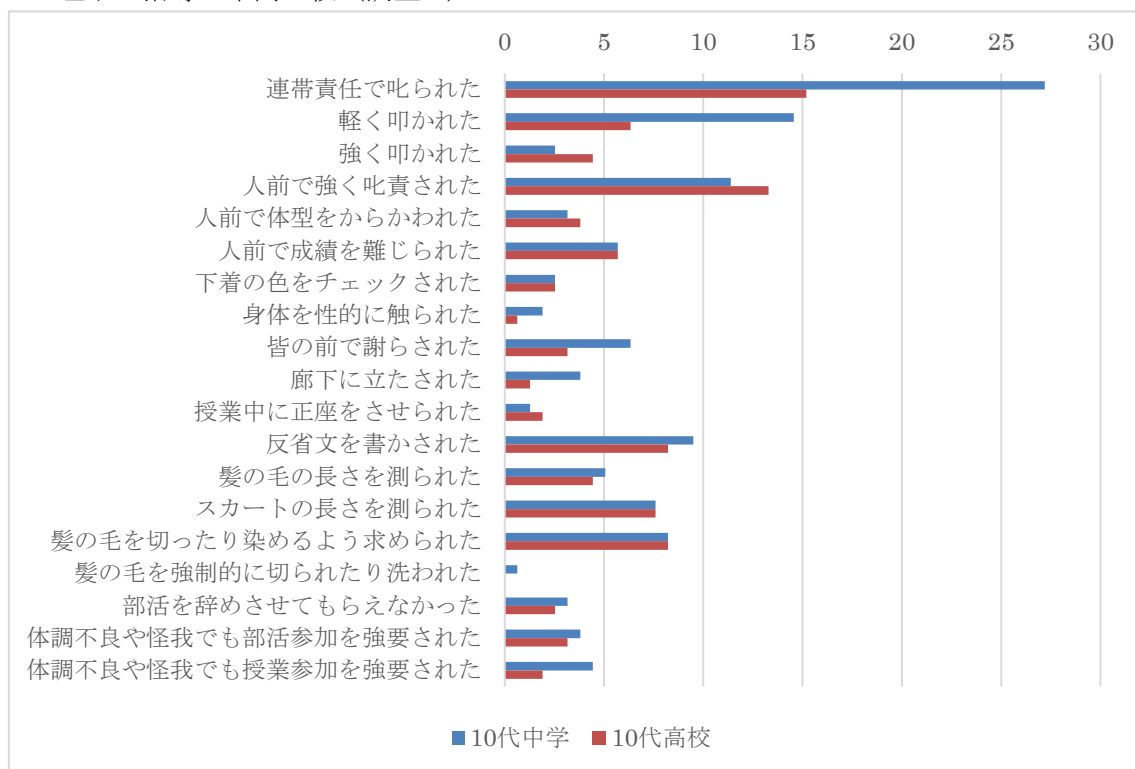
	10代	20代	30代	40代	50代
連帯責任で叱られた	15.19	13.1	4.74	12	14.08
軽く叩かれた	6.33	4.76	8.53	12.8	13.15
強く叩かれた	4.43	3.57	5.69	10.4	9.86
人前で強く叱責された	13.29	6.55	8.53	10	10.33
人前で体型をからかわれた	3.8	4.17	2.84	2	0.47
人前で成績を難じられた	5.7	4.17	1.9	3.2	2.35
下着の色をチェックされた	2.53	1.19	0.47	0.4	0.94
身体を性的に触られた	0.63	1.19	0.95	0.8	0
皆の前で謝らされた	3.16	1.79	2.84	1.6	1.88
廊下に立たされた	1.27	2.38	2.84	4	7.04
授業中に正座をさせられた	1.9	0.6	1.42	3.2	5.63
反省文を書かされた	8.23	5.95	2.84	6	5.6

髪の毛の長さを測られた	4.43	1.79	2.84	7.2	6.1
スカートの長さを測られた	7.59	7.74	6.16	8.8	7.04
髪の毛を切ったり染めるよう求められた	8.23	5.36	6.16	7.2	5.16
髪の毛を強制的に切られたり洗われた	0	0.6	0.95	0.4	2.35
部活を辞めさせてもらえなかった	2.53	1.19	0.95	0.8	1.41
体調不良や怪我でも部活参加を強要された	3.16	6	0.47	0.8	1.41
体調不良や怪我でも授業参加を強要された	1.9	2.38	1.42	1.6	0.47

高校時の教員からの理不尽指導についても、時代ごとの変化が見られる。「髪の毛を強制的に切られた」体験はほぼ見られなくなっているが、「自主的に」切ったり染めたりするよう求める仕方は一定的な数字を保っている。

体罰や性暴力被害を訴える現役 10 代も存在するが、こうした事例は「一件でもあれば多すぎるもの」「1 is 2 many」であり、全教育現場で直ちに改められなくてはならないものである。

■ 理不尽指導の中高比較（調査 A）



一般に、高校よりも中学の方が、理不尽な指導を受けやすいことがわかる。教員からすれば、中学生の方が、より強い管理を必要とする時期なのだということになるかもしれないが、「中学生らしく」過剰コントロールするという風潮が全国的に根強いとも言える。

(5) その他、クロス分析による主な結果

【学校の学力（偏差値）×校則】

「学校の学力」との間に統計的に有意な関連を持つ校則は少なく、全体としては一定の傾向を持つとは言えない。

→少なくとも、学力と校則との間に単線的な関係ではない。

【学生態度×理不尽指導】

「学生態度」ごとに「理不尽な指導」を受けやすいかどうかと関わりをもつかが異なると考えられる。たとえば「おとなしかった」は「理不尽な指導」のほとんどの項目とはかかわりがないと考えられるが、「よく悪さをしていた」はほとんどの「理不尽な指導」項目とかがかわりがある。

【校則×いじめ体験】

全体として、校則に「あてはまるものがある」時には、「あてはまるものがない」場合に比べて、「いじめ被害」「いじめ加害」に「あてはまるものがある」割合が高くなる。

→校則の厳しさといじめ体験との間には強い関係がある

【校則×学校の荒れ】

荒れている学校とそうはいえない学校とで分けた場合、荒れている学校において校則が厳しい割合が高い。

【理不尽指導について】

荒れているか否か、年代などとは関係なく、校則が厳しいと、理不尽指導が高まる。「荒れているから理不尽指導をする」だけではなく、「校則を厳しくしている」から「理不尽指導をする」という関係があることも考えられる。

【学校区分×校則】

国公立と私立に分けてクロス表を作れば、国公立よりも私立で校則が厳しい。

【保護者の校則×校則に対する考え方】

自分が理不尽指導を受けたことのある親ほど、子どもの校則について時代に合わないと考える。保護者だけではなく、自分が理不尽指導を受けたことのある者ほど、現代の校則は改めた方がいいと考えている。逆に言えば、自分は理不尽指導を受けてないという人ほど、「そうした校則が（今の若い人に）あっても仕方がない」と考えている。

(6) 質的調査 (C、D) については別紙参照